



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1934, 14(155): 198-199

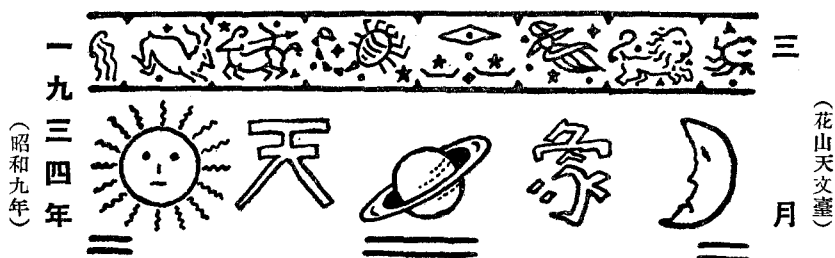
ISSUE DATE:

1934-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165486>

RIGHT:



I—太陽と月（天空の明暗）

日付	日出 (星座)	日没	日付	夜半月齢	月出 (星座)	月没
日	時分	時分	日	日	時分	時分
1	6 27 (水瓶)	17 53	1	15.6	17 46 (しゝ)	6 9
2	6 21	17 57	2	16.6	18 46	6 35
11	6 14	18 1	3	17.6	19 47 (おとめ)	7 0
16	6 7 (魚)	18 5	4	18.6	20 50	7 26
21	6 0	18 9	5	19.6	21 55	7 55
26	5 53	18 13	6	20.6	23 3	8 28
31	5 46	18 17	7	21.6	— (てんびん)	9 7
			8	22.6	0 12 (蛇遺ひ)	9 55
			9	23.6	1 19 (さそり)	10 51
			10	24.6	2 20 (いて)	11 56
			11	25.6	3 14	13 8
			12	26.6	4 0 (やぎ)	14 21
			13	27.6	4 38	15 44
			14	28.6	5 12 (水かめ)	16 35
			15	0.1	5 43	17 43
			16	1.1	6 11	19 0
			17	2.1	6 40 (うを)	20 6
			18	3.1	7 10	21 12
			19	4.1	7 43 (ひつじ)	22 16
			20	5.1	8 20	23 18
			21	6.1	9 3 (牛)	—
			22	7.1	9 50	0 16
			23	8.1	10 42 (駭者)	1 20
			24	9.1	11 38 (双子)	1 56
			25	10.1	12 37	2 37
			26	11.1	13 36 (かに)	3 12
			27	12.1	14 35	3 43
			28	13.1	15 34 (しゝ)	4 11
			29	14.1	16 34	4 37
			30	15.1	17 36	5 6
			31	16.1	18 39 (乙女)	5 29

春分 天文年鑑によれば、三月21日16時28分、太陽は春分点を通過する。此の日が「春分」の日、我が國では春季皇靈祭を行はせられる。天文學上では此の日此の時刻から「春」が始まることとなる。此の日の前後7日間が佛教家の所謂「彼岸會」で、寺々は賑はしい。太陽が赤道にやつて來たので、春分の日に晝夜平分である筈なのだが、日月の多少の不規則運動や、地球上で大氣その他の關係で、本統の晝夜平分は三月17日となる。

月は、三月1日が満月、9日が下弦、15日が新月、23日が上弦、そして又、月末の31日に満月となる。(去二月は珍らしく一回も満月が無かつたので、一月と三月とは何れも満月が2回あるのは面白い。我が國で見える星の掩蔽

は割に少い。三月2日21時頃に Leonis, 25日夜半過ぎに 49 B. Cancri, 28日20時頃に 48 Leonisが、それぞれ月に掩蔽されるのみ。8日の早晩に Antares 一等星が掩蔽されるけれど、之れは南アフリカで見えるに止まる。又、22日の夜半にも一等星の β Tauri 星が掩蔽されるけれど、やはり南米の南端でないと見えない。

木星の對衝が近づいて來た。小形の望遠鏡を持つ人々にも興味深いのは、夜な夜な現はれる木星の衛星のいろいろな現象である。蝕や掩蔽や星面經過や影の去來など、今年から此等の現象は又「天文年鑑」に載せられてゐるから、アマチュアたちの觀望を御すゝめする。

昭和九年三月の夜の天空

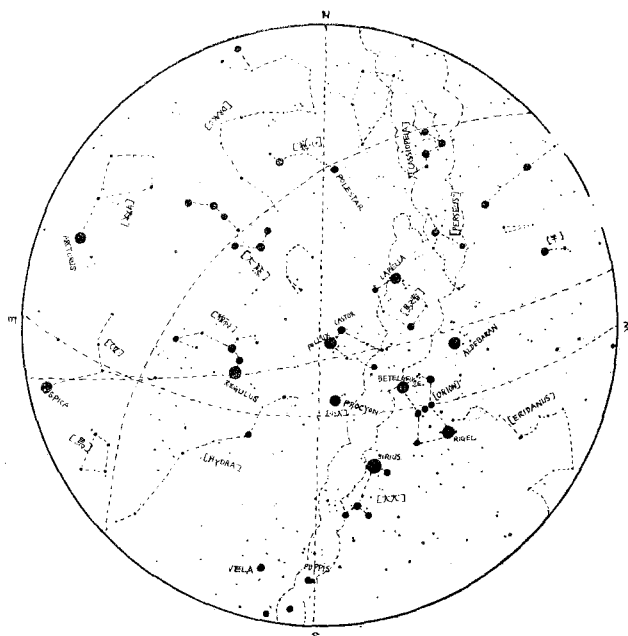
(恒星時 Sidereal Time 6時)

日本の中央部(京阪神地方)で

3月1日ならば午後9時

15日ならば午後8時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる。但し時刻は日本中央標準時



Ⅲ—天 象

三月 1日23時 海王星と月と會合
 2 16 海王星對衝
 5 6 木星と月と會合
 6 9 水星が内合
 12 3 金星最大光輝
 12 19 金星と月と會合
 13 17 土星と月と會合

14日17時 水星と月と會合
 16 13 火星と月と會合
 18 8 天王星と月と會合
 18 18 水星が停留
 21 16 春分
 29 6 海王星と月と會合